

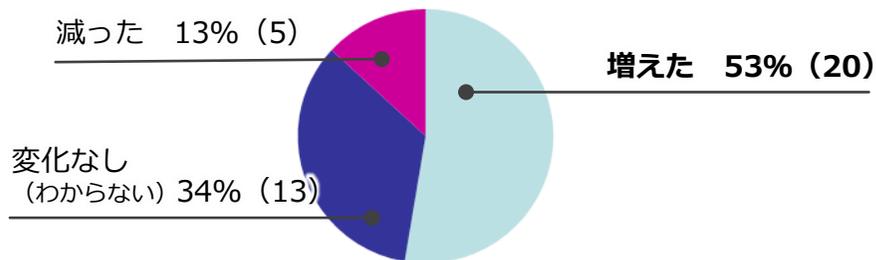
なら女性活躍推進倶楽部 登録更新企業アンケート 集計結果

1. 目的：倶楽部会員企業女性の採用・社員の就業継続・女性の管理職登用状況の変化等についての把握
2. 回答期間：令和4年1月7日（金）～28日（金）
3. 対象：平成30年度登録で今年度登録更新対象の企業 58社
4. 回答総数：38社（66%）

令和3年度 登録更新企業アンケート結果について

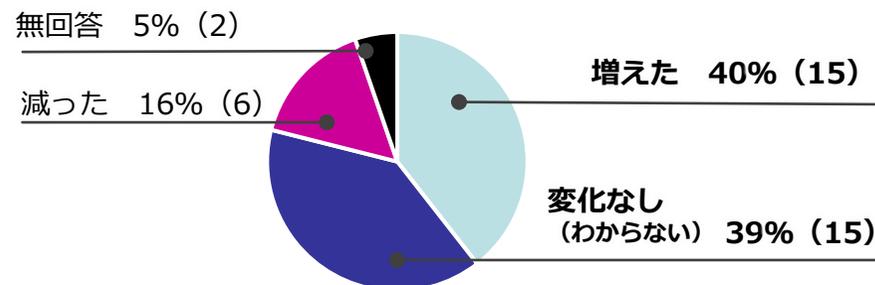


(1) 採用した正規社員に占める女性の割合



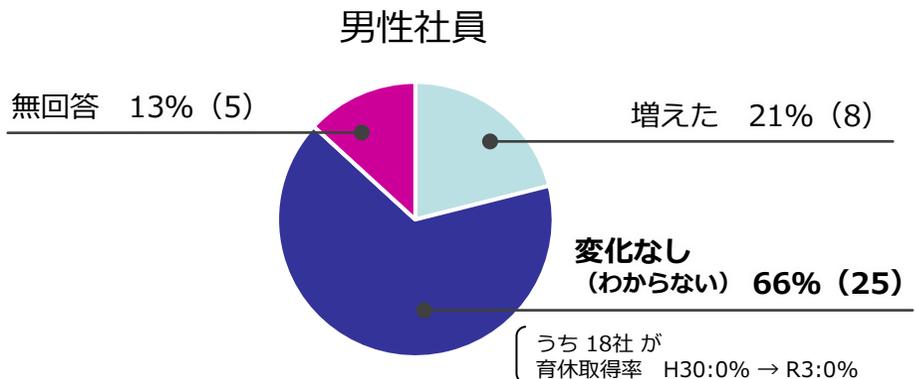
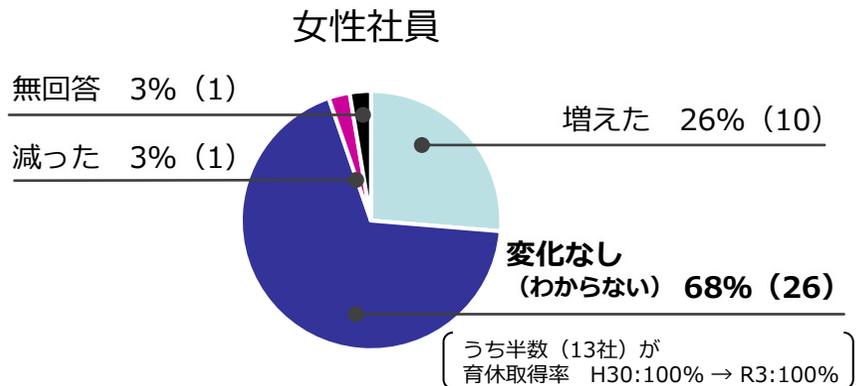
- ▶ 過半数を超える企業で正規社員に占める女性の割合が増えたと回答

(2) 社員全体（非正規含む）に占める女性の割合



- ▶ およそ半数近くの企業で社員全体に占める女性の割合が増えたと回答

(3) 育児休業取得率

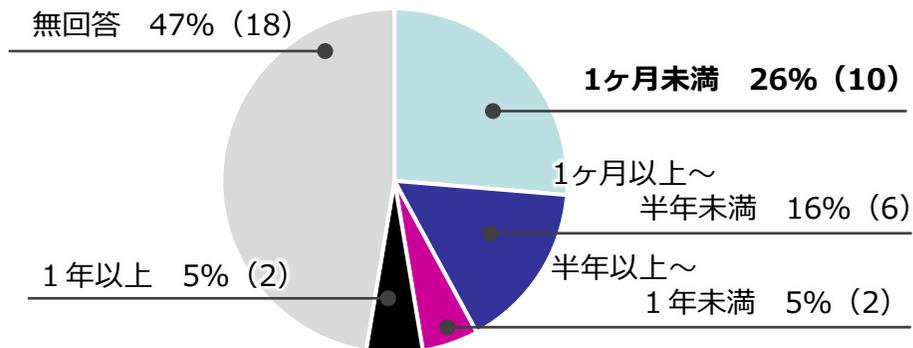


- ▶ 女性社員においては、7割近くが「変化なし」と答えたが、そのうち半数の企業においては元々100%の育児休業取得率であった。
- ▶ 逆に男性社員では「増えた」割合は2割程度で、また「変化なし」のうち18社において0%のままであった。

令和3年度 登録更新企業アンケート結果について

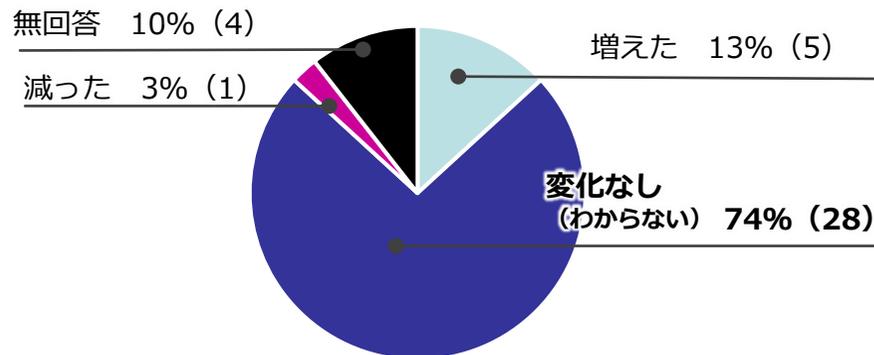


(4) 男性社員の育児休業取得期間(最長)



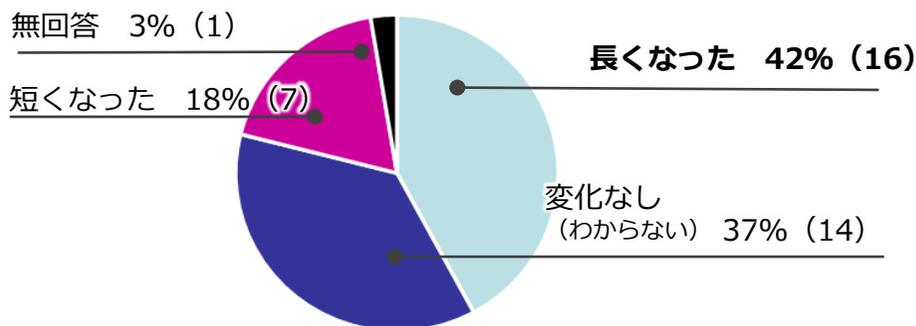
➤ 無回答を除き、「1ヶ月未満」が最も多い。「1年未満」は5割を占めている。

(5) 女性社員の育児休業からの復帰率



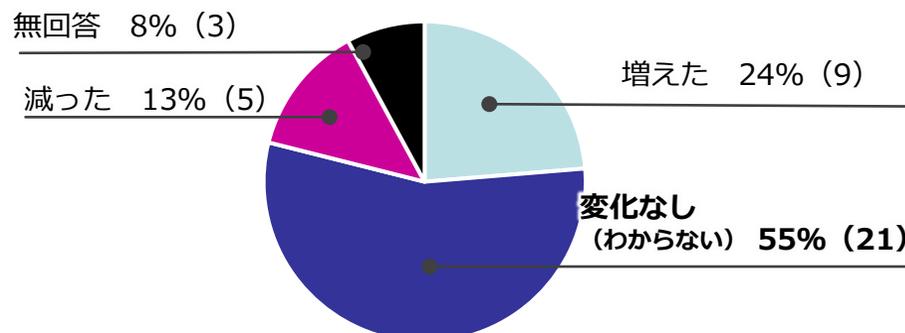
➤ 「増えた」と答えた企業は1割程度で、「変化なし」が最も多く、7割を占めている。

(6) 女性の正規社員の平均勤続年数



➤ およそ半数近くの企業で女性の正規社員の平均継続年数が長くなったと回答

(7) 管理職に占める女性の割合



➤ 「増えた」と答えた企業は2割程度で、「変化なし」が最も多く、半数を超えている。

まとめ

- 女性の採用、管理職への登用、就業継続は時代の流れとともに着実にすすんでいる
- 男性の育児休業に関しては積極的な企業とそうでない企業の2極化がみられる

これまでなら女性活躍推進倶楽部として、各種働き方に関する制度構築の必要性とその制度を活用できる職場の風土づくりについてセミナー等行ってきた。今度も引き続き、労働局や「パパ産休」プロジェクトと連携した取組や情報発信を進めていくことで、男性も女性もいきいきと働きやすい職場づくりを進めていく。